

# SDGsの達成に向けた重点的な取組み宣言書

作成日:	令和6年6月20日
事業者名:	たねのしずく研究所

三側面	SDGsの達成に向けた重点的な取組み	関連するSDGsゴール (最大3つ)	実績	指標・目標	
環境	耕作放棄茶園に生る茶の実からオイルを採りスキンケア商品や食用油を生産販売するというたねのしずく研究所の事業そのもの・全体がSDGs達成の環境的側面から捉えると次の2つが重点的取組みとして挙げられます。 1) 耕作放棄茶園で茶の実を採取することそれ自体ー中山間地の環境保全 2) 生産工程で生じる副産物のアップサイクリングーチャ種子の種皮を草木染の染料として、オイル絞り粕を洗浄剤として	⑫つくる責任、⑮森の豊かさも守ろう	1) R5年度の採取量はR3年度の約50%増 2) R5年度の副産物使用量はR3年度の5%増 *ソーシャルプロダクツ普及推進協会主催のソーシャルプロダクツ・アワード2022でソーシャルプロダクツ賞を受賞 *サステナブルコスメアワード2021で企業部門・地方創生賞を受賞 *雑誌“オルタナ”主催の「サステナブル★セレクション2023」で「一つ星」に選定	指標	1) 採取する茶の実の量 (茶の実を採取する耕作放棄茶園の面積) 2) 副産物の利用量
				目標	1) 採取する茶の実の量を2030年までに2024年度 (R6年度) 比50%以上増 2) 副産物の利用量を2030年までに2024年度 (R6年度) 比100%以上増
社会	耕作放棄茶園に生る茶の実からオイルを採りスキンケア商品や食用油を生産販売するというたねのしずく研究所の事業そのもの・全体がSDGs達成の社会的側面から捉えると次の2つが重点的取組みとして挙げられます。 1) 採取や搾油原料への調製・製造工程で地域の高齢者や就労支援団体、全国からのボランティアなどと協業 2) 生活者 (消費者) や茶産業従事者の啓発ーワークショップ開催など	⑧働きがいも経済成長も、⑫つくる責任	1) R5年度の採取協力者・ボランティアのべ30名、就労支援施設委託量約600kg 2) ワークショップ開催H29年度から現在まで約120回、約1,100名が参加 *ソーシャルプロダクツ普及推進協会主催のソーシャルプロダクツ・アワード2022でソーシャルプロダクツ賞を受賞 *サステナブルコスメアワード2021で企業部門・地方創生賞を受賞 *サステナブル★セレクション2023」で「一つ星」に選定	指標	1) 採取協力者数 (地元+関係人口ボランティア) 2) セミナー・ワークショップ開催回数
				目標	1) 採取協力者数2030年までに毎年平均のべ100人達成 2) ワークショップ開催数2030年までに毎年のべ15回開催
経済	耕作放棄茶園に生る茶の実からオイルを採りスキンケア商品や食用油を生産販売するというたねのしずく研究所の事業そのもの・全体がSDGs達成の経済的側面から捉えると次の2つが重点的取組みとして挙げられます。 1) 耕作放棄茶園の茶の実を利用することによる放棄園の資源化ー経済的価値の創造 2) 搾油効率の向上	⑧働きがいも経済成長も、⑫つくる責任、⑮森の豊かさも守ろう	1) R5年度の採取量はR3年度の約50%増 2) 原料重量当たりのR5年度の収量はR4年度の5%増 *ソーシャルプロダクツ普及推進協会主催のソーシャルプロダクツ・アワード2022でソーシャルプロダクツ賞を受賞 *サステナブルコスメアワード2021で企業部門・地方創生賞を受賞 *サステナブル★セレクション2023」で「一つ星」に選定	指標	1) 茶の実を採取する茶園面積の拡大 2) 搾油効率の向上
				目標	1) 2030年度までに現在の取り組み面積の5倍 2) 2030年度までに搾油率平均15%を達成

ガバナンス	チェック	SDGsの達成に向けた重点的な取組みが従業員に共有されており、かつ達成するための仕組みが組織内に構築されている (PDCAサイクル等)。  <具体的な内容を記載>  たねのしずく研究所の事業は申請者だけが従事する個人事業である。申請者は常にセルフフィードバックを行いながらSDGs的事業を推進している。
	チェック	SDGsの達成に向けた重点的な取組みをホームページ等で対外的に公表している。 1) ウェブサイト記載 “耕作放棄茶園の現状を伝え、茶実の知名度アップと普及を目的として、各地でティーシードオイルの搾油ワークショップを開催しています。また、耕作放棄園の資源化、福祉事業所との協働を通してSDGsの目標8 (働きがいも経済成長も)、12 (つくる責任 使う責任)、15 (陸の豊かさも守ろう) の目標達成に向けて取り組んでいます。” <a href="https://seedoilab.com/">https://seedoilab.com/</a> 2) ワークショップ 耕作放棄茶園活用の取組広報のため岐阜県はじめ首都圏・関西圏10以上の都府県でワークショップを開催している。H29年度から現在まで約120回、約1,100名が参加した。